

医療機関内で起こり得る感染症の種類とその特長

○ 感染防御能が低下した患者などで起こり得る感染症 (内因性感染症)

[特長]

- ・ ガン末期、術後などの感染防御能力が低下した患者で発生する。
- ・ 発生した症例の多くが散発的。
- ・ 原因菌は多様だが、主に消化管内等に常在する菌種による場合が多い。
- ・ 予防や回避が困難で、不可抗力な場合も多い。
- ・ 病院環境の広範な汚染の影響を受けることがある。

(外因性感染症)

[特長]

- ・ 特定の病原体が患者間で直接または間接的に伝播して発生する。
- ・ 複数の患者から同じ性状を示す病原体が分離される。
- ・ 薬剤耐性を獲得した病原体によるところが多い。
- ・ 標準予防策、接触感染予防策で病原体の伝播を減少可能。
- ・ 病院環境の広範な汚染の影響を受けることが多い。

○ 輸液ルートや静脈注射などの汚染が原因となって発生する感染症 (外因性感染症)

[特長]

- ・ 感染防御能力の高低にかかわらず発生する。
- ・ 単発例もあるが、同時多発的事例も多い。
- ・ 患者から分離される菌の種類は、特定の菌種に限られる場合が多い（1菌種程度）。
- ・ 感染原因を取り除くことで、予防や回避が可能。
- ・ 病院環境の広範な汚染の影響を受ける事が多い。